

平成 2 9 年度事業報告書

I 事業の実施概要

- (1) 助成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～・・・ 2
- (3) 制作者フォーラムの開催・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (4) 定期刊行物の刊行・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (5) ホームページ等による広報・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (6) 資産運用検討委員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

II 処務の概要

- (1) 役員、評議員等に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (2) 理事会および評議員会に関する事項・・・・・・・・・・・・ 10
- (3) その他法人の運営に関する事項・・・・・・・・・・・・ 12

III 付属明細書（資料 1～4）

平成 29 年度事業報告書

I 事業の実施概要

現在試験放送が行われている超高精細映像による 4K・8K 放送は本年 12 月より本放送がスタートし、映像表現の可能性がより広がることへの期待が高まっている。また、技術革新にともなう放送と通信の急速な融合にともない、放送事業のあり方に関する議論が活発に行われており、放送業界を取り巻く環境は今後大きく変貌することが想定される。

こうした状況の中で、放送文化基金は放送文化の新たな息吹を感じ取りながら、計画した事業の着実に効果的な実施に努めた。

助成事業は、若手研究者等への助成金が増額できるよう昨年度と同額の助成規模を継続し、研究者の裾野拡大を図った。また、解散した東京ケーブルビジョンから受入れた寄付金を技術開発の助成金の一部に活用することとした。

表彰事業は、放送文化基金賞贈呈式のイベントとしての質的充実を図りつつ、視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組への表彰に努めた。

制作者支援活動事業は、制作者フォーラムを各地の実行委員会との共催により、従来からの「北海道・東北地区」、「九州・沖縄地区」に加え「愛知・岐阜・三重地区」でも今年度新たに開催することによって、系列や地域の枠を超えた交流の場を地域放送局の制作者等に提供する地域の拡大を図った。

(1) 助成事業

ア 平成 29 年度助成

平成 29 年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の 2 分野を対象に公募を行った結果 97 件の申請があり、助成審査委員会の審査と理事会の審議を経て、最終的に 45 件、5,919 万円の助成を決定した。

申請および採択結果は、次の通りである。(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技 術 開 発	24	6,306	11	2,819
人文社会・文化	73	10,199	34	3,100
合 計	97	16,505	45	5,919

(助成対象一覧 資料 1)

平成 26 年度より実施している若手研究者奨励のための助成金 500 万円は平成 28 年度で終了したが、平成 29 年度も大学院生や非常勤講師など若手研究者への助成を充実させるため、助成金の総額を平成 28 年度と同規模とした。その結果、引続き若手への手厚い助成を定着させることができた。

助成金贈呈式は平成 30 年 3 月 2 日に開催し、目録贈呈式と懇親会を実施した。また、目録贈呈式に先立ち、技術開発部門では愛媛大学大学院教授の藤田欣裕氏による「放送と通信における複数映像の同期表示に関する研究」、人文社会・文化部門では京都精華大学准教授の小泉真理子氏による「日本アニメーション現地化の現状と課題～文化ビジネスの発展のために～」に関する研究報告会を開催した。

イ 平成 27 年度助成事業の実施報告

平成 29 年 10 月～11 月に開催した其々の審査委員会で、平成 27 年度に助成した技術開発 13 件、人文社会・文化 32 件の実施報告（成果報告・平成 29 年 6 月末締切）について、一件ずつ内容の評価を行った。

(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第43回放送文化基金賞

平成28年度中に放送された優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成29年4月～5月に開かれた各部門、各分野の専門委員会、審査委員会を経たのち、理事会で計30件を決定した。

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番組部門	テレビドキュメンタリー	89	5	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3
	テレビドラマ	47	4	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2
	テレビ エンターテインメント	70	4	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2
	ラジオ	42	3	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞1
	個別分野	—	6	番組部門受賞作品から選定
個人・ グループ部門	放送文化	16	4	—
	放送技術	13	4	—
合 計		277	30	

(受賞一覧 資料2)

番組部門の賞金は最優秀賞100万円、優秀賞50万円、各奨励賞30万円、個別分野賞20万円。また、個人・グループ部門の賞金は30万円。

最優秀賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では『NHKスペシャル ある文民警察官の死 ～カンボジアPKO 23年目の告白～』（NHK大阪放送局）、テレビドラマ番組『土曜ドラマ トットてれび』（NHK）、テレビエンターテインメント番組『ザ・プレミアム 寅さん、何考えていたの？ 渥美清・心の旅路』（かわうそ商会、NHKエンタープライズ、NHK）、ラジオ番組『メロディーの向こうに～童謡・唱歌の世界～』（山口放送）である。

個人・グループ部門では、放送文化、放送技術でそれぞれ4件が受賞した。基金賞の贈呈式と懇親パーティは、7月4日にホテルオークラ東京で開催した。

イ 他の賞への参加

A B U（アジア太平洋放送連合）番組コンクール、第44回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール、「創作ドラマ大賞」に参加した。

A B U番組コンクールの授賞式は、平成29年11月3日に中国の成都で行われ、スポンサーの一員として賞金を贈呈した。

「日本賞」は、平成29年10月18日に授賞式が行われ、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『理想郷への手紙』（ミャンマー）に対して放送文化基金賞を贈呈した。なお、第43回（平成28年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞した『未来は私のもの』（バングラデシュ）は、番組として完成し、第44回日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

日本放送作家協会とNHKが主催する「創作ドラマ大賞」について、第42回「創作テレビドラマ大賞」の贈賞式は平成29年11月9日に行われ、大賞の『週休4日をお願いします』（石原 理恵子 氏）に賞金50万円を贈呈した。第46回「創作ラジオドラマ大賞」の贈賞式は平成30年3月23日に行われ、大賞の『灰色のカンバス』（出川 真弘 氏）に賞金50万円を贈呈した。

（表彰結果 資料3）

（3）制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクション等、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に全国5地区で開催している。

平成29年度は、3地区で現地実行委員会と共催して、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるパネルディスカッションや講演会が行われた。

なお、全国 5 地区のうち北信越地区と中四国地区は原則隔年開催となっている。

○北日本制作者フォーラム in ふくしま（北海道・東北地区）

<北海道・東北の全民放とNHK、計 40 局>

日 時 平成 29 年 10 月 27 日（金）

場 所 福島市 わいわいホール／福島市

参加者 約 50 名

○愛知・岐阜・三重制作者フォーラム in なごや（愛知・岐阜・三重地区）

<愛知・岐阜・三重 3 県の全民放とNHK 計 10 局>

日 時 平成 29 年 11 月 17 日（金）

場 所 中京テレビ本社 1 F プラザ C／名古屋市

参加者 約 140 名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

<九州・沖縄の民放とNHK、計 35 局>

日 時 平成 29 年 11 月 25 日（土）

場 所 NHK福岡放送局 よかビジョンホール／福岡市

参加者 約 70 名

さらに、平成 30 年 2 月 17 日（土）に東京で全国制作者フォーラム 2018 を開催し、上記 3 地区のミニ番組コンテストで入賞した作品の上映とゲストのベテラン制作者による意見交換、トークセッション『テレビのイノベーション～予定調和をどう打ち破るか』を実施した。

(4) 定期刊行物の刊行

平成 29 年 4 月に助成対象の研究・事業の紹介、研究報告会と全国制作者フォーラム 2017 の概要などを掲載した広報誌「放送文化基金報」No. 86 を刊行。平成 29 年 9 月には放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した No. 87 を刊行した。

(5) ホームページ等による広報

ホームページでは事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開と基金の P R に努めた。

<日本語版内容>

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞 WEB 申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物（読む・楽しむ） 等

<英語版内容>

助成の募集案内、助成対象一覧（平成 29 年度より新設）、日本賞・ABU 賞への参加について 等

(6) 資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、平成 29 年 9 月と平成 30 年 1 月に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

中西 一博 (大和住銀投信投資顧問(株) 法人部長)

高瀬 拓 (大和住銀投信投資顧問(株) 法人部次長)

柿沼 点 (大和住銀投信投資顧問(株) 経済調査部長)

森 幸嗣 (大和住銀投信投資顧問(株) 国内債券運用部付部長)

松原 克美 (放送文化基金会計顧問・公認会計士)

清水 孝雄 (放送文化基金監事・TBS社友)

松坂 千尋 (放送文化基金監事・日本放送協会経営企画局長)

(幹事)

崎元 利樹 (放送文化基金専務理事)

II 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員の選任等

(ア) 第19回評議員会(平成29年6月22日)において、全役員の任期が満了となることを受け、次のとおり選任した。

(理事)

末松 安晴 氏 (東京工業大学栄誉教授)

藤井 宏昭 氏 (国際交流基金顧問)

箕浦 康子 氏 (お茶の水女子大学名誉教授)

大石 芳野 氏 (写真家、日本大学客員教授)

濱田 純一 氏 (東京大学名誉教授)

崎元 利樹 氏 (元日本放送協会大阪放送局長)

(監事)

清水 孝雄 氏 (TBS社友)

松坂 千尋 氏 (日本放送協会経営企画局長) 新任

(任期は、平成 29 年 6 月 22 日から 31 年 6 月の定時評議員会まで)

なお、菅 康弘監事は任期満了に伴い退任した。

(イ) 理事長及び専務理事の選定

第 19 回評議員会で理事 6 名が選任されたのを受け、第 38 回理事会
(平成 29 年 6 月 22 日)を開催して、定款第 28 条 2 項に基づき、
末松安晴理事が理事長に崎元利樹理事が専務理事に選定された。

(ウ) 理事長、専務理事の報酬について

第 19 回評議員会において、新しい理事長、専務理事の報酬につい
ては現行と同額としたいとの説明を受け、定款第 19 条第 2 項 (2)
に基づき承認した。

イ 審査委員の委嘱

(ア) 第 39 回理事会 (平成 29 年 7 月 14 日)において、日本放送協会
の理事の担当領域変更にともなう審査委員会委員の委嘱を行なっ
た。

・助成審査委員会委員 (技術開発)

児野 昭彦 氏 (日本放送協会 専務理事・技師長)

(任期 平成 29 年 7 月 14 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

・助成審査委員会委員 (人文社会・文化)

菅 康弘 氏 (日本放送協会 理事)

(任期 平成 29 年 7 月 14 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

(イ) 第 42 回理事会 (平成 30 年 2 月 9 日)において、審査委員会委員
を次のとおり委嘱した。

助成技術開発審査委員会

委員長 今井 秀樹 氏（東京大学名誉教授）
一方井克爾 氏（東通常務取締役・技師長）
伊東 晋 氏（東京理科大学教授）
児野 昭彦 氏（日本放送協会理事・技師長）
都築愛一郎 氏（名城大学教授） 新任

助成人文社会・文化審査委員会

委員長 黒崎 政男 氏（東京女子大学教授）
安藤 裕康 氏（国際交流基金理事長）
菅 康弘 氏（日本放送協会理事）
佐藤 卓己 氏（京都大学大学院教授）
白石 さや 氏（東京大学名誉教授）
山口いつ子 氏（東京大学大学院教授）

放送文化基金賞審査委員会

委員長 吉田 喜重 氏（映画監督）
青木 隆典 氏（日本民間放送連盟常務理事）
河合祥一郎 氏（東京大学大学院教授）
木田 幸紀 氏（日本放送協会専務理事）
桐野 夏生 氏（作家） 新任
金田一秀穂 氏（杏林大学教授）
河野 尚行 氏（放送批評家）
羽鳥 光俊 氏（東京大学名誉教授）
堀川とんこう 氏（演出家）

（任期 平成30年4月1日から平成32年3月31日まで）

平成 30 年 3 月 31 日現在の役員、評議員、審査委員は、資料のとおりである。

(役員、評議員、審査委員一覧 資料 4)

(2) 理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
平成 29. 6. 7 (第 37 回)	・ 平成 28 年度事業報告および決算について ・ 任期満了に伴う役員候補者の推薦について ・ 理事長、専務理事の報酬について ・ 第 43 回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 平成 29 年度「助成要項」について ・ 職員賃金支給規程の改正について ・ 財団法人東京ケーブルビジョンの解散に伴う残余財産の受贈について ・ 「将来ビジョン懇談会」(第 3 回)の実施報告について
平成 29. 6. 22 (第 38 回)	・ 理事長および専務理事の選定について
平成 29. 7. 14 (第 39 回)	・ 助成審査委員会委員の委嘱について ・ 助成技術開発審査委員会 専門委員の委嘱について
平成 29. 10. 6 (第 40 回)	・ 第 20 回評議員会の開催について ・ 特定個人情報取扱規程の改正について ・ 育児休業に関する規程の改正について ・ 技術開発助成費用準備資金規程の制定について ・ 懲戒手続きに関する諸規程の新設・改正について ・ 平成 29 年度事業活動収支施行見込みについて

平成 29. 12. 1 (第 41 回)	・ 平成 30 年度予算編成の考え方について ・ 第 44 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について
平成 30. 2. 9 (第 42 回)	・ 第 21 回、第 22 回評議員会の開催について ・ 平成 29 年度助成の実施について ・ 平成 30 年度事業計画および収支予算の編成について ・ 平成 30 年度資産運用計画について ・ 放送文化基金賞 審査委員会専門委員の委嘱について ・ 平成 29 年度収支決算収支見込について ・ 公益認定等委員会による立入検査について

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
平成 29. 6. 22 (第 19 回)	・ 平成 28 年度事業報告および決算について ・ 第 43 回「放送文化基金賞」選考結果について ・ 任期満了に伴う役員の選任について ・ 理事長、専務理事の報酬について ・ 財団法人東京ケーブルビジョンの解散に伴う残余財産の受贈について
平成 29. 12. 1 (第 20 回)	・ 平成 29 年度収支見通しおよび平成 30 年度予算編成方針について ・ 事業の執行状況について
平成 30. 3. 8 (第 21 回)	・ 平成 30 年度事業計画と収支予算の編成について ・ 平成 29 年度助成の実施について ・ 事業の執行状況について

(3) その他法人の運営に関する事項

ア 寄付金の受入れ

平成 25 年 12 月 1 日に解散した財団法人東京ケーブルビジョンより残余財産の一部を寄付したいとの申し入れがあり、「寄附金等取扱規程」に基づき、当該団体の清算手続き終了後、平成 29 年 6 月 15 日に 9,000 万円を寄付金として受入れた。受入れた寄付金は特定資産に計上し、平成 29 年度より毎年 1,000 万円ずつ取崩し、技術開発の助成金の一部に充当することとした。

Ⅲ 付属明細書 (資料 1～4)

(資料 1)

平成29年度 助成対象一覧

〔技術開発〕

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
次世代放送用デバイス・材料への応用を目的としたゲル化剤の開発	山口大学大学院創成科学研究科 准教授 岡本 浩明	300
立体映像表示用空間光変調器に向けた磁気カー効果の電界印加制御	秋田大学 大学院理工学研究科 准教授 吉村 哲	240
ITU 第3 地域の次世代衛星放送のための降雨減衰対策技術の研究	一般財団法人 電波技術協会 参与 福地 一	215
920 MHz および2.45 GHz 帯を用いたヘッドマウントディスプレイ用通信システムに関する研究	東京理科大学 理工学部 助教 村松 大陸	299
デジタル自己干渉除去フィルタの開発	豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系 助教 宮路 祐一	255
強調加工した合成音声による音声認識・音声合成型補聴方式の開発	福岡大学 医学部耳鼻咽喉科 研究員 小野 博	293
22.2ch を用いた放送の普及とそのシステムのさらなる開発	ニューパスペクティブ・オブ・デベロップメント・フォー・22.2ch 代表 後藤 英	300
超高精細映像放送・蓄積のための映像符号化方式の研究	明治大学 総合数理学部 専任教授 鹿喰 善明	249
家庭におけるテレビ観視状況の調査研究	東京都市大・NES 共同研究グループ 代表 八木 伸行	258
空間的かつ時間的な撮影データの周期性に基づく分散管理手法	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 助教 川上 朋也	210
ディスプレイタイプがコンテンツ視聴時の運動・認知・心理・生理に及ぼす影響	東京都市大学・香川大学共同研究 代表 市野 順子	200

(所属などは平成30年2月14日現在)

計11件 2,819万円

〔人文社会・文化〕

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
大津波警報発表時の初動報道におけるアナウンサーの効果的な声とは	株式会社毎日放送アナウンサー室 主事 福本 晋悟	17
放送のインターネット同時配信における法的課題に関する研究	放送大学教養学部 教授 児玉 晴男	100
韓国におけるテレビフォーマットの保護戦略	コンテンツ展開研究会 研究代表者 村上 画里 (大阪大学 知的財産センター特任准教授)	40
OTTVの普及が情報流通に与える影響に関する研究	OTTV 研究会 代表 西岡 洋子 (駒澤大学グローバル・メディア・スタディー ズ学部教授)	100
メディア市場における広告効果と広告への抵抗感の計測	長崎大学経済学部 教授 宍倉 学	90
コンテンツの活用による観光振興のあり方に関する研究	静岡英和学院大学人間社会学部 准教授 崔 瑛	80
NHK朝の連続テレビ小説における女性の表象と生き方モデル—調査研究に基づく映像教材の作成—	朝ドラの効用と活用による女性文化の発 展研究 代表 稲垣 恭子 (京都大学大学院教育学研究科教授)	90
利他的行為における明るいニュースの役割	ニューヨーク州立大学オルバニー校 助教授 山本 昌広	68
テレビ番組のネット流通時代における「テレビ」の信頼性の根拠に関する研究	メディア投票研究会 代表 渡邊 久哲 (上智大学文学部新聞学科教授)	220
インターネット利用と社会的分断に関する国際比較研究	ワールド・インターネット・プロジェクト (WIP) 日本共同代表 木村 忠正 (立教大学社会学部教授)	140
テレビ放送を媒介とした「ネット炎上」の発生メカニズムの分析とその抑止	東洋大学 総合情報学部 教授 藤本 貴之	70
語学と放送—ラジオフランス語講座の変遷と語学の大衆化過程	京都大学人間・環境学研究科 後期博士課程 倉館 健一	40
教育テレビ並列期における吹替え文化の発生：洋画番組における字幕との相克	京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程 木下 浩一	40
「上方」放送文化の成立と変容—人と番組のネットワークに着目して	JOBKのメディア史研究会 共同代表 丸山 友美(法政大学大学院 社会学研究科 博士後期課程)	40
英国ワークショップ運動にみるオルタナティブメディアのデザイン	東京大学大学院情報学環 特任助教 鳥海 希世子	35
参加型の非公認ラジオ実践がつくるオープンな「公共空間」の自生力と涵養性についての国際比較	大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程 和田 敬	35
米国DemocracyNow! がジャーナリズムを通して構築する視聴者との関係性	茨城大学 全学教育機構 助教 塚田 純	30
2018年サッカーW杯におけるパブリック・ビューイングの研究	パブリック・ビューイング研究会 代表 立石 祥子(立命館大学 衣笠総合 研究機構専門研究員)	90

〔人文社会・文化〕

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
タイ北部コン・ムアン社会におけるマス・メディアがもたらす民族的複合／排除の人類学的研究	首都大学東京大学院人文科学研究科 博士後期課程 斎藤 俊介	65
災害復旧・復興期における臨時災害放送局の実態研究	新潟大学 博士研究員 大内 斎之	50
NHK教育テレビ『幼稚園・保育所の時間』の番組が幼児教育の〈音楽リズム〉領域に与えた影響について	静岡産業大学経営学部 准教授 葉口 英子	80
NHK for School「カテイカ」を活用したAL型小学校家庭科授業モデルの開発	兵庫教育大学家庭科教育研究会 代表 永田 智子(兵庫教育大学教授)	50
NNNドキュメントのデジタルアーカイブ化とその利活用	NNNドキュメント研究会 代表 丹羽 美之 (東京大学大学院情報学環准教授)	150
未来を見据えた「脚本アーカイブ」のシステム構築および教育・社会活用の研究	日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 代表理事 池端 俊策 (脚本家)	270
映像記録シリーズ『放送人の証言』作成作業	一般社団法人 放送人の会 理事 隈部 紀生	70
高度成長期の地域記録史料としての政策ニュース映画の保存と継承	二十世紀市民アーカイブズ研究会 代表 春木 良且 (フェリス学院大学国際交流学部教授)	80
放送体験教室 ～放送への関心とメディア・リテラシーを高める～	公益財団法人放送番組センター 常務理事 松舘 晃	120
テレビドラマの名作上映とシンポジウムの開催	「テレビドラマ黄金期の巨人たち」運営委員会委員長 菅野 高至(一般財団法人市川森一脚本賞財団選考委員会委員長)	110
国際ドキュメンタリー提案フォーラム Tokyo Docs 2018	Tokyo Docs 実行委員会 委員長 天城 鞠彦 (NPO法人東京TVフォーラム理事長)	180
ABUキッズ事業を通してのアジアの子ども番組・コンテンツ制作者の能力向上	ABUアジア太平洋放送連合 番組局長 奥村 康一	160
ヨーロッパにおける日本のテレビ番組の過去の成功と現在の衰退に関する調査・分析：第2段階	神戸大学大学院(人文学部、社会学部) 外国人リサーチフェロー Pellitteri Marco	125
バングラデシュの防災活動におけるコミュニティラジオの能力評価	チッタゴン大学コミュニケーション・ジャーナリズム学部 教授 Ullah Mohammad	70
宗教的闘争心に対処するためのラジオドラマ	CCDバングラデシュ 所長 Mourtoza Golam	60
放送を活用したジェンダー問題への新たなアプローチ	アジア太平洋放送開発機構(AIBD) 所長 Chang Jin	135

(所属などは平成30年2月14日現在)

計34件 3,100万円

合計45件 5,919万円

第43回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門		賞 (賞金)	受 賞 者	番 組 名 ・ 業 績
番 組 部 門	テレビドキュメンタリー番組	最 優 秀 賞 (100万円)	NHK大阪放送局	NHKスペシャル ある文民警察官の死 ～カンボジアPKO 23年目の告白～
		優 秀 賞 (50万円)	チューリップテレビ	はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防
		(30万円)	NHK熊本放送局、NHK福岡放送局	E TV特集 水俣病 魂の声を聞く ～公式確認から60年～
		奨 励 賞 (30万円)	テレビ愛媛	じいちゃんの棚田
		(30万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 決断なき原爆投下 米大統領 71年目の真実
	テレビドラマ番組	最 優 秀 賞 (100万円)	NHK	土曜ドラマ トットてれび
		優 秀 賞 (50万円)	NHK	土曜ドラマ 夏目漱石の妻
		(30万円)	TBSテレビ	火曜ドラマ 逃げるは恥だが役に立つ
		奨 励 賞 (30万円)	NHK	NHKスペシャル 「未解決事件」File.5 ロッキード事件
	テレビエントメ番組	最 優 秀 賞 (100万円)	かわうそ商会、NHKエンタープライズ、NHK	ザ・プレミアム 寅さん、何考えていたの？渥美清・心の旅路
		優 秀 賞 (50万円)	テレビ朝日	古舘トーキングヒストリー ～忠臣蔵、吉良邸討ち入り完全実況～
		(30万円)	NHK札幌放送局、NHK旭川放送局	天空のお花畑 大雪山“小さな賢者”の物語
		奨 励 賞 (30万円)	NHK熊本放送局	E TV特集 15歳 私たちが見つけたもの ～熊本地震 3年3組の半年～
	ラジオ番組	最 優 秀 賞 (100万円)	山口放送	メロディーの向こうに～童謡・唱歌の世界～
		優 秀 賞 (50万円)	NHK仙台放送局	震災ラジオ特集「3.11若者たちは、いま」
		奨 励 賞 (30万円)	信越放送	SBCラジオスペシャル 受話器の向こうから～026-237-0555
		演 技 賞 (20万円)	満島ひかり	土曜ドラマ トットてれび
		演 技 賞 (20万円)	長谷川博己	土曜ドラマ 夏目漱石の妻
		演 出 賞 (20万円)	柴田岳志、榎戸崇泰	土曜ドラマ 夏目漱石の妻
		制 作 賞 (20万円)	五百旗頭幸男	はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防
		映 像 賞 (20万円)	鈴木友史、村井陽亮、若松元明、周東昭彦	天空のお花畑 大雪山“小さな賢者”の物語
		企 画 賞 (20万円)	笠原公彦	SBCラジオスペシャル 受話器の向こうから～026-237-0555
個人・グループ部門	放 送 文 化	(30万円)	宮崎 賢 (RSKプロビジョン カメラマン)	35年にわたるハンセン病強制隔離の実態についての継続映像報道
		(30万円)	阿武野勝彦 (東海テレビ放送 プロデューサー)	優れたドキュメンタリー番組の制作、その多角的な展開と牽引
		(30万円)	三宅民夫 (NHK アナウンサー)	幅広い分野で卓越したアナウンス技術を発揮
		(30万円)	「テレビ寺子屋」制作スタッフ (テレビ静岡)	40年にわたり家庭教育について考える番組を制作
	放 送 技 術	(30万円)	スーパーハイビジョン試験放送用受信機開発グループ (NHK、シャープ) 代表 原 哲 (NHK)	スーパーハイビジョン試験放送用高度BSデジタル受信機の開発
		(30万円)	SDI-Hyper開発プロジェクト 代表 吉村理希 (フジテレビジョン)	超高速データ伝送装置「SDI-Hyper」の開発
		(30万円)	プロキシ編集プラットフォーム開発グループ 代表 小池 中 (関西テレビ放送)	アーカイブ統合型ニュース制作システム～プロキシ編集プラットフォームの開発
		(30万円)	手話CG生成システム開発グループ 代表 東 真希子 (NHK)	気象情報の手話CG生成システムの開発

*番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

他の賞への参加結果について

1. 2017 年 A B U 番組コンクール

<テレビ 8 部門に 165 作品、ラジオ 7 部門に 101 作品が応募>

※ 放送文化基金はスポンサーの一員として賞金 4,000 ドルを贈呈

表 彰 日 平成 29 年 11 月 3 日

場 所 中国・四川省／成都

2. 第 44 回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

<企画部門への参加は 36 機関、43 企画>

表 彰 日 平成 29 年 10 月 18 日

場 所 NHK放送センター1階 101 スタジオ

受賞企画 『理想郷への手紙』 (賞金 10,000 ドル)

セイン・リャン・トゥン 氏

(P S映画製作／ミャンマー)

※ 企画は番組化し、ミャンマー国内で放送される予定。また、平成 30 年開催の「日本賞」コンクール開催期間中に上映される予定。

3-1. 第 42 回創作テレビドラマ大賞

<800 編を超える応募があり大賞 1 編、佳作 1 編、奨励賞 2 編が決定>

表 彰 日 平成 29 年 11 月 9 日

場 所 アルカディア市ヶ谷

大賞作品 『週休 4 日をお願いします』 石原 理恵子 氏 (賞金 50 万円)

3-2. 第 46 回創作ラジオドラマ大賞

<256 編の応募があり、大賞 1 編、佳作 2 編が決定>

表 彰 日 平成 30 年 3 月 23 日

場 所 日本放送作家協会 (東越伯鷹ビル)

大賞作品 『灰色のカンバス』 出川 真弘 氏 (賞金 50 万円)

公益財団法人 放送文化基金
役員、評議員、審査委員 一覧

○ 役 員

理 事 長(非常勤)	末 松 安 晴	東京工業大学名誉教授
理 事(非常勤)	藤 井 宏 昭	国際交流基金顧問
理 事(非常勤)	箕 浦 康 子	お茶の水女子大学名誉教授
理 事(非常勤)	大 石 芳 野	写真家、日本大学客員教授
理 事(非常勤)	濱 田 純 一	東京大学名誉教授
専務理事(常 勤)	崎 元 利 樹	元日本放送協会大阪放送局長
監 事(非常勤)	清 水 孝 雄	TBS社友
監 事(非常勤)	松 坂 千 尋	日本放送協会経営企画局長

○ 評 議 員

青 木 隆 典	日本民間放送連盟常務理事
青 木 保	国立新美術館館長
池 辺 晋 一 郎	作曲家
上 田 良 一	日本放送協会会長
小 田 島 雄 志	東京大学名誉教授
音 好 宏	上智大学教授
加 藤 剛	俳優
木 田 幸 紀	日本放送協会専務理事
マーシャ・クラッカー	聖心女子大学教授
今 野 勉	演出家、脚本家
鈴 木 幸 一	インターネット・インシアティブ® 代表取締役会長CEO
高 島 肇 久	海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長
高 橋 正 美	日本放送協会経営委員会委員
遠 山 敦 子	トヨタ財団理事長
長 尾 真	元国立国会図書館長
中 村 桂 子	JT生命誌研究館館長
西 條 温	日本ケーブルテレビ連盟名誉顧問
長 谷 部 恭 男	早稲田大学大学院教授
羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
福 地 茂 雄	新国立劇場顧問
向 井 千 秋	宇宙航空研究開発機構技術参与
山 田 太 一	脚本家
吉 田 喜 重	映画監督

○ 助 成 審 査 委 員

技 術 開 発	委員長／今 井 秀 樹	東京大学名誉教授
	委 員／一 方 井 克 爾	東通常務取締役・技師長
	伊 東 晋	東京理科大学教授
	児 野 昭 彦	日本放送協会専務理事・技師長
	都 竹 愛 一 郎	名城大学教授

人 文 社 会 ・ 文 化	委員長／黒 崎 政 男	東京女子大学教授
	委 員／安 藤 裕 康	国際交流基金理事長
	菅 康 弘	日本放送協会理事
	佐 藤 卓 己	京都大学大学院教授
	白 石 さ や	東京大学名誉教授
	山 口 い つ 子	東京大学大学院教授

○ 放送文化基金賞 審査委員

委員長／吉 田 喜 重	映画監督
委 員／青 木 隆 典	日本民間放送連盟常務理事
河 合 祥 一 郎	東京大学大学院教授
木 田 幸 紀	日本放送協会専務理事
桐 野 夏 生	作家
金 田 一 秀 穂	杏林大学教授
河 野 尚 行	放送批評家
羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
堀 川 と ん こ う	演出家